

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会 感染症解析評価部会]
(平成15年8月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)四類感染症

平成15年7月分(6月30日～8月3日:5週間分)

| 疾患No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 | 疾患No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 |
|------|---------------|-------|-------|--------|------|----------------------------|-----------|-------|------|--------|------|
| 1 | インフルエンザ | 0 | 0.00 | 0.00 | | 12 | 麻疹 | 3 | 0.01 | 0.17 | |
| 2 | 咽頭結膜熱 | 274 | 0.91 | 0.43 | ↑ | 13 | 流行性耳下腺炎 | 174 | 0.58 | 1.14 | ↘ |
| 3 | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 297 | 0.99 | 0.64 | ↘ | 14 | 急性出血性結膜炎 | 9 | 0.11 | 0.08 | |
| 4 | 感染性胃腸炎 | 1,022 | 3.41 | 2.42 | ⇒ | 15 | 流行性角結膜炎 | 178 | 2.12 | 1.37 | ↗ |
| 5 | 水痘 | 574 | 1.91 | 1.64 | ↘ | 16 | 急性脳炎 | 0 | - | - | |
| 6 | 手足口病 | 6,525 | 21.75 | 2.33 | ↑ | 17 | 細菌性髄膜炎 | 0 | - | 0.02 | |
| 7 | 伝染性紅斑 | 137 | 0.46 | 0.26 | ↘ | 18 | 無菌性髄膜炎 | 78 | 0.93 | 2.23 | ↑ |
| 8 | 突発性発疹 | 323 | 1.08 | 0.82 | ⇒ | 19 | マイコプラズマ肺炎 | 19 | 0.23 | - | ↑ |
| 9 | 百日咳 | 4 | 0.01 | 0.04 | | 20 | クラミジア肺炎 | 1 | 0.01 | - | |
| 10 | 風疹 | 0 | 0.00 | 0.03 | | 21 | 成人麻疹 | 0 | - | - | |
| 11 | ヘルパンギーナ | 1,112 | 3.71 | 4.29 | ↑ | 「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り) | | | | | |

| 急増減 | 増減 | 微増減 | 横ばい |
|---------------------|-----------------------|-------------------------|----------------------|
| ↑ | ↗ | ⇒ | ⇒ |
| ↓ | ↘ | ↘ | |
| 前月と比較しておおむね1:2以上の増減 | 前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減 | 前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減 | 殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む) |

定点について

定点情報は、定点把握対象の四類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内187の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

| | 内科定点 | 小児科定点 | 眼科定点 | STD 定点 | 基幹定点 | 合計 |
|----------|------|-------|--------|--------|--------------|-----|
| 対象疾患 No. | 1 | 1～13 | 14, 15 | 22～25 | 16～21, 26～28 | |
| 定点数 | 44 | 75 | 20 | 27 | 21 | 187 |

この情報は、「<http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html>」のホームページに掲載しています。
全国情報については、「<http://idsc.nih.go.jp/>」に掲載されています。
インフルエンザホームページについては、「<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp/>」に掲載されています。

定点把握（月報）四類感染症

平成15年7月分（7月1日～7月31日）

| 疾患No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 | 疾患No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当り | 過去5年平均 | 発生記号 |
|------|---------------|-------|------|--------|------|----------------------------|------------------|-------|------|--------|------|
| 22 | 性器クラミジア感染症 | 52 | 1.93 | 2.03 | ⇒ | 26 | メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染 | 119 | 5.67 | - | ⇒ |
| 23 | 性器ヘルペスウイルス感染症 | 18 | 0.67 | 0.58 | ◇ | 27 | ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 30 | 1.43 | - | ◇ |
| 24 | 尖圭コンジローム | 13 | 0.48 | 0.29 | ⇒ | 28 | 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 12 | 0.57 | - | ↑ |
| 25 | 淋菌感染症 | 19 | 0.70 | 1.18 | ◇ | 「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り） | | | | | |

咽頭結膜熱 急増（6月105件 7月274件）
 手足口病 急増（6月2,947 7月6,525件）
 ヘルパンギーナ 急増（6月344件 7月1,112件）
 無菌性髄膜炎 急増（6月28件 7月78件）
 マイコプラズマ肺炎 急増（6月9件 7月19件）
 薬剤耐性緑膿菌感染症 急増（6月2件 7月12件）

2 一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

一類・二類感染症 発生なし
 三類感染症 10件発生（腸管出血性大腸菌感染症（福山市5件（O157），広島市3件（O26，O157）尾三地域保健所管内（O157），東広島地域保健所管内（O157））
 全数把握四類感染症 5件発生（梅毒 3件，破傷風 1件，レジオネラ症 1件）

3 一般情報

ヘルパンギーナ

7月の感染症動向月報に本疾病が増加傾向にある旨を掲載しましたが、7月に入り急激に定点当たりの報告件数が増加しています。

昨年の定点当たり5月が276件，6月が585件，7月が498件で6月がピークでしたが，本年は，定点当たり，6月が344件で7月に入り1,112件と急激に上昇しております。昨年と比較すると，発生のピークが少し遅れています。

病原体は，コクサッキーウイルスA群が多く，まれにコクサッキーウイルスB群でも発症します。症状は，38～40の発熱，咽頭痛，頭痛，筋肉痛，まれによだれや発疹が認められることもあります。潜伏期間は，約2～4日で，感染経路は，飛沫感染が主ですが，腸管で増殖するため，便中に4週間前後ウイルスが排出されます。汚染されたおむつや下着等から手を介し間接的に経口感染する場合もあります。

好発年齢は1歳～4歳で，まれに髄膜炎を併発することがあります。予防方法は，特に乳幼児を介護する場合は，手洗いを十分行い，洗濯物は日光で十分乾かすことが必要です。

咽頭結膜熱

本疾病は，5月頃から上昇傾向になり，定点当たりの報告件数が，6月が105件で昨年同時期78件に比較して若干多い程度でしたが，7月には274件と昨年同時期が90件であったのに比べ，発生件数は増加しています。

本疾患の病原体は，アデノウイルスで，血清型は3型が多く，1・4・7・14型も見られ，7型による重症例の報告もあります。臨床症状は，発熱で発症し，頭痛，食欲不振，全身倦怠感とともに，咽頭に起因する喉の痛み，結膜炎による結膜充血等の症状を併発し，3日から5日間程度持続します。治療としては，対症療法で，経過は一般的には良好ですが，アデノウイルス7型の場合は，重症肺炎，ウイルス（VAHS）関連血球貧食症候群などの合併症を起こす場合があります。感染予防は，感染者との濃密な接触を避け，流行時にはうがい，手指の消毒を励行することが重要です。また，プールを介して流行することが多く，別名，プール熱とも呼ばれていることから，プールに入る場合は，水泳前後のシャワー等を十分行う必要があります。

重症急性呼吸器症候群（SARS）に関して，WHOは，平成15年7月5日，全ての「伝播確認地域」の指定を解除しました。また，渡航制限に関する勧告も出していませんが，渡航される方は，SARSの症状（急な発熱・咳などの呼吸器症状）は十分知っておいてください。